

21世紀プログラムの10年

林 篤裕、副島 雄児、田尾 周一郎、武谷 峻一
(九州大学 高等教育開発推進センター)

学部横断型教育を行なう九州大学の21世紀プログラムは学内の11の学部で開設されている講義を本人の興味・関心に応じて履修するため、個々人でカリキュラムが異なる。設立されて10年が経過したので、その間に在籍した学生の履修状況を調べた。その結果、代表的な履修パターンというものとは存在しなかったものの文系学部での履修が多く、また3つに類型化した履修パターンごとに履修学部数や、文系学部での単位取得率に傾向があることが判った。

1 はじめに

その名称からも判る通り、2001年春にスタートした九州大学21世紀プログラム(以下、21cpと略記)は早いもので2011年3月には第7期生が卒業し、4月には第11期生が入学してくる。「専門性の高いゼネラリスト」を理念の一つに掲げた本プログラムは、九州大学にある11の学部を横断的に本人の関心に応じて自由に選択し必要単位を揃えて卒業していくものであり、特定の学部ではなく、複数の学部に興味のある学生を受け入れる学際的なプログラムである。

2011年で開設されて10年が経過したので、本論文ではその間に入学した学生の修学特性について卒業生と在籍生について調査を行い、21cpの開設理念と照らし合わせて考

察を行なう。

2 専攻教育の単位取得学部数

21cpの特徴は、学生が自らの意思に基づいて学部横断的に科目履修をし、自分の専門を構築していく点にある。そこでまず、どの範囲で科目選択を行っているか単位取得学部数の観点から検討する。学生の履修状況を分析するにあたって、ここでは専攻教育において単位を取得した科目のみを分析対象とし、未取得や未受験は除外した。また、調査時点を同一にするため、どの年度も4年次前期まで(3年半)の取得単位を対象としている。

学生の履修範囲を示すものとして、学生が単位を取得した学部数の分布を表1に示す。年度によって単位取得学部数は異なるが、最

表1 単位取得学部数

単位取得 学部数	1期生		2期生		3期生		4期生		5期生		6期生		7期生	
	人数	割合												
1学部	1	5%			2	11%			1	3%	1	4%	1	4%
2学部	2	10%	1	4%	3	16%	2	9%	2	7%	3	12%	2	8%
3学部	7	33%	7	30%	5	26%	6	26%	5	17%	5	19%	8	31%
4学部	6	29%	11	48%	5	26%	6	26%	8	28%	3	12%	7	27%
5学部	5	24%	3	13%	4	21%	4	17%	5	17%	12	46%	7	27%
6学部			1	4%			4	17%	8	28%	2	8%	1	4%
7学部							1	4%						
計	21	100%	23	100%	19	100%	23	100%	29	100%	26	100%	26	100%
平均学部	3.6		3.8		3.3		4.2		4.3		4.1		3.8	

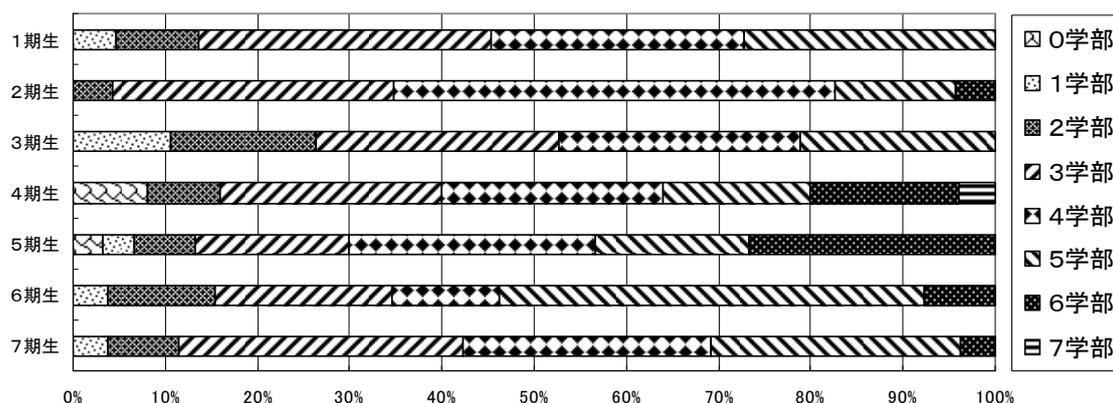


図1 単位取得学部数割合

少は1学部、最多は7学部であり、平均では4学部弱となっている。これらをグラフにした図1からも判るように、4学部以上から単位を取得した者が5割以上となっている。第4期生や第5期生では6学部以上からの取得した者が2割いたが、近年は減少傾向にあるようである。

次に、学部系統別での履修傾向を表2に示す。九州大学には文系学部が4学部、理系学部が7学部あるが、これらをどの様にまたがって単位を取得しているかを調べたものである。これも年度によって異なるものの、文系学部を中心に取得している学生が多いことは共通している。

3 学部毎の単位取得数

では具体的にどの学部で単位を取得しているかを見えるために、学部毎での取得単位数を分析し、履修の全体傾向を把握する。図2に、学部別の単位取得率（＝各学部における単位取得人数／学年の学生総数）を示す。これはどの位の割合の学生がそれぞれの学部

の単位を取得したかを示したものである。表2でも指摘したように、全体的に文系学部での単位取得が多く、ここでもその様子が見受けられる。中でも、8割前後の学生が文学部から単位を取得しており、一方、理系学部では、芸術工学部の履修が増加傾向にある。医系学部での履修は少ない。

4 履修タイプ

学生がどの学部の単位を取得して卒業していくかを体系的にとらえるために、各学部における単位取得の特徴から、学生を以下の3つのタイプに類型化した。

- ① 専門型：特定の1学部における取得単位数が70%以上を占める者
- ② 複合型：特定の1学部の取得単位数が5割強程度の者
- ③ ゼネラリスト型：取得単位数の内、5割を超える特定学部を持たない者

まず、各タイプをイメージし易いように、

表2 文系・理系からみた履修傾向

	1期生	2期生	3期生	4期生	5期生	6期生	7期生
文系学部でのみで単位を取得	43%	22%	37%	22%	17%	35%	23%
文系・理系学部にまたがって単位を取得(文系学部が半数以上)	19%	44%	32%	39%	45%	50%	69%
文系・理系学部でまたがって単位を取得(理系学部が半数以上)	33%	35%	16%	35%	28%	15%	8%
理系学部でのみで単位を取得	5%	0%	16%	4%	10%	0%	0%

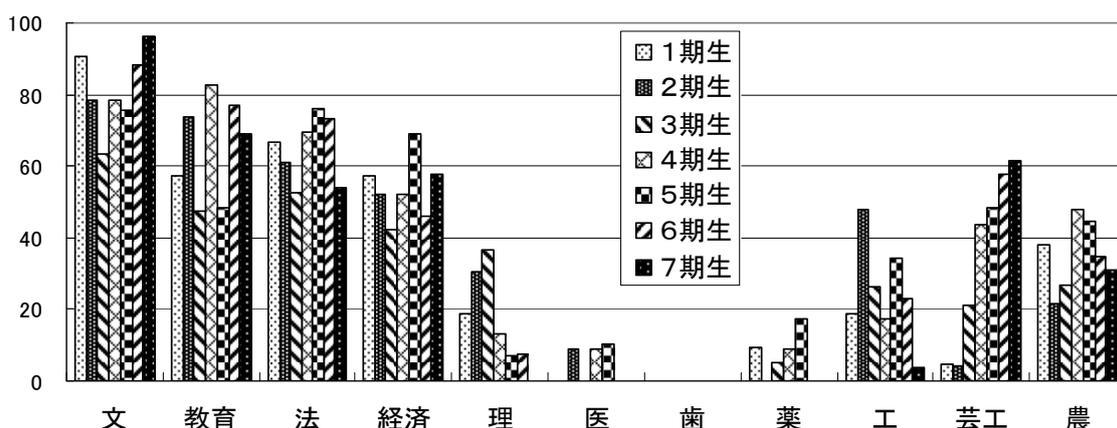


図2 各学部における履修傾向

表3 履修タイプ別の履修単位における各学部の割合 (%)

	No	文	教	法	経	理	工	芸	農	文系	理系	卒論受入部局
専門型	1	100	0	0	0	0	0	0	0	100	0	人文科学研究院
	2	92	8	0	0	0	0	0	0	100	0	—
	3	83	13	4	0	0	0	0	0	100	0	人文科学研究院
	4	21	7	71	0	0	0	0	0	100	0	法学研究院
	5	0	81	4	7	0	7	0	0	93	7	人間環境学研究院
	6	7	0	4	0	81	0	4	4	11	89	理学研究院
	7	3	3	0	0	80	0	7	7	7	93	医学研究院
複合型	8	67	10	24	0	0	0	0	0	100	0	法学研究院
	9	53	47	0	0	0	0	0	0	100	0	—
	10	45	50	5	0	0	0	0	0	100	0	人間環境学研究院
	11	31	69	0	0	0	0	0	0	100	0	留学生センター
	12	9	50	23	9	0	9	0	0	91	9	人間環境学研究院
	13	0	5	0	58	0	0	32	5	63	37	経済学研究院
ゼネラリスト型	14	5	0	11	0	0	16	63	5	16	84	芸術工学研究院
	15	33	24	43	0	0	0	0	0	100	0	法学研究院
	16	29	6	41	18	0	0	6	0	94	6	比較社会文化研究院
	17	30	25	35	0	0	0	10	0	90	10	法学研究院
	18	10	25	10	40	0	0	15	0	85	15	経済学研究院
	19	31	0	6	38	0	0	13	13	75	25	経済学研究院
	20	36	4	16	12	0	0	32	0	68	32	比較社会文化研究院
	21	22	17	17	11	0	6	28	0	67	33	—
	22	13	0	4	48	0	0	4	30	65	35	経済学研究院
	23	11	0	7	37	0	0	11	33	56	44	農学研究院
24	23	8	0	23	0	8	8	31	54	46	—	
25	32	5	11	5	0	0	47	0	53	47	芸術工学研究院	
26	0	36	11	0	0	7	29	18	46	54	人間環境学研究院	

第6期生を例に、個々の学生がどの学部で単位を取得してきたかを表3に示すと共に、卒論の受け入れ部局名を右端に記しておく。部局名が記されていない者はその時点で卒論に取りかかっていない者である。

これを見ると、それぞれのタイプにおいて

どの様なブロックで履修しているかが判り、21cpの学部横断的な修学を個人でどの様に具現化しているかが把握できる。各年度でこのような表を作成し、第1期生から今春卒業を向かえる第7期生までをまとめたものが表4である。これも年度によってかなり傾向

表4 履修タイプ（人数および割合）

	1期生		2期生		3期生		4期生		5期生		6期生		7期生	
専門型	7名	33%	6名	26%	8名	42%	5名	22%	9名	31%	7名	27%	4名	15%
複合型	7名	33%	9名	39%	5名	26%	9名	39%	10名	35%	7名	27%	16名	62%
ゼネラリスト型	7名	33%	8名	35%	6名	32%	9名	39%	10名	35%	12名	46%	6名	23%

に違いがあり、系統的な把握は難しそうである。

また、この履修タイプごとの修学特性を分析するために、平均履修学部数と取得単位全体に占める文系科目の割合を計算した（表5）。この表で判ることは、単位取得学部数は「ゼネラリスト型 > 複合型 > 専門型」の順で履修学部数が多い（ただし、第4期生は一部異なっている）。また、どのタイプでも文系学部で単位を取得する割合が高く、ゼネラリスト型においてはその傾向が強い。

5 在学生の履修状況

ここまで卒業を迎えた学生の履修状況を見てきたが、この節では、現在3年生である第8期生27名（在籍者は転課程者2名を含む29名）、および現在2年生である第9期生27名（同28名）について彼らの履修状況を把握する。第8期生は現在得られる3年前期までの成績を、また、第9期生は同様に2年前期までの成績を用いた。全学教育科目と専攻教育科目について登録単位数、取得単位数、単位取得率、および単位取得科目平均点の観点から履修状況を把握する（表6、表7）。

21cp 課程では、入学直後から 21cp の専攻教育科目である「21cp 独自科目」を履修するものの最初の1年間は主に全学教育科目を中心に履修するので、第9期生が他学部で開講されている専攻教育科目を履修することはまだ少ない。参考までに、第8期生の同時期の履修状況も集計してみたが（表8）、第9期生のそれ（表7）とほぼ同じであることが判る。2年半を経過した第9期生の履修状況を見ると、2年次以降は履修の中心が全学教育科目から専攻教育科目に移行していることが判る。

第8期生の履修動向をより詳細に見るために、この時点での専攻教育の単位取得学部数や各学部における履修傾向を表9と図3に示す。これを卒業生のそれら（表1、図2）と比較すると、履修期間が1年間短いとはいえ、単位取得学部数は最大で6学部となっており、また、文系学部での履修が多い傾向にあるのも同様である。残りの1年間でこの差を埋めるべく履修を続けていくであろうことが予想される。

6 まとめ

今回我々は、学部横断型教育を行なっている21cpの履修状況を調べた。個々の学生が

表5 履修タイプ別の平均履修学部数、および取得単位全体に占める文系科目の割合

	平均履修学部数							取得単位全体に占める 文系科目の割合						
	1期生	2期生	3期生	4期生	5期生	6期生	7期生	1期生	2期生	3期生	4期生	5期生	6期生	7期生
専門型	3.1	3.2	2.8	4.0	3.6	3.3	2.3	52%	72%	61%	37%	39%	73%	74%
複合型	3.4	3.7	3.0	3.8	4.3	3.4	3.8	78%	78%	68%	59%	63%	81%	84%
ゼネラリスト型	4.1	4.5	4.3	4.8	5.0	4.9	4.7	71%	69%	77%	80%	82%	71%	83%
平均	3.6	3.8	3.4	4.2	4.3	4.1	3.8	68%	73%	69%	63%	63%	74%	83%

表6 第8期生の履修状況（2年半の間に履修した科目）

	人数	登録単位数			取得単位数			単位取得率			単位取得科目平均点			
		最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	
全学教育科目	教養科目	27	18	54	25.6	6	30	20.9	13%	100%	88%	66.8	91.8	79.6
	言語科目	27	11	22	13.9	3	20	11.9	20%	100%	87%	63.0	91.5	78.5
	健康・スポーツ	27	2	8	3.0	1	4	2.7	13%	100%	94%	69.0	93.3	83.3
	基礎科学	24	2	32	9.8	2	30	8.8	15%	100%	93%	62.0	90.0	77.6
	情報処理	25	1	3	1.1	1	1	1.0	100%	100%	100%	63.0	91.0	81.1
	小計	27	38	86	53.1	13	69	44.2	15%	100%	87%	68.9	90.1	79.1
専攻教育科目	21cp独自科目	27	20	37	27.4	15	27	25.4	41%	100%	94%	74.8	92.2	85.7
	他学部	25	12	67	45.2	6	56	38.7	20%	100%	81%	73.2	86.4	79.4
	小計	27	32	94	70.9	15	83	61.3	39%	100%	84%	75.0	88.6	82.6
総計	27	94	154	124.0	28	146	105.4	23%	100%	85%	72.9	89.3	81.0	

表7 第9期生の履修状況（1年半の間に履修した科目）

	人数	登録単位数			取得単位数			単位取得率			単位取得科目平均点			
		最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	
全学教育科目	教養科目	27	18	32	23.9	18	32	22.6	63%	100%	95%	67.4	90.0	83.1
	言語科目	27	10	33	13.4	5	31	12.0	45%	100%	89%	68.7	92.0	80.3
	健康・スポーツ	27	2	4	2.7	2	4	2.7	100%	100%	100%	68.0	94.5	84.2
	基礎科学	24	2	24	8.3	2	24	8.6	0%	100%	91%	62.5	90.0	76.8
	情報処理	27	1	1	1.0	1	1	1.0	100%	100%	100%	60.0	100.0	78.8
	小計	27	39	67	49.0	30	66	45.9	63%	100%	94%	69.2	89.8	81.1
専攻教育科目	21cp独自科目	27	17	24	20.0	17	24	19.8	90%	100%	99%	71.5	93.1	86.2
	他学部	23	3	17	11.0	3	17	10.4	50%	100%	93%	69.7	92.5	82.5
	小計	27	19	37	29.4	18	37	28.6	79%	100%	97%	71.5	90.9	85.2
総計	27	58	103	78.3	49	103	74.6	68%	100%	95%	71.9	90.2	82.7	

表8 第8期生の履修状況（1年半の間に履修した科目）

	人数	登録単位数			取得単位数			単位取得率			単位取得科目平均点			
		最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	
全学教育科目	教養科目	27	18	36	22.9	2	30	20.1	8%	100%	89%	66.8	91.8	79.4
	言語科目	27	10	19	12.1	3	19	10.6	27%	100%	83%	63.0	91.4	78.0
	健康・スポーツ	27	2	6	2.9	1	4	2.7	17%	100%	94%	69.0	93.3	83.3
	基礎科学	23	2	32	9.9	2	30	9.0	0%	100%	86%	62.0	95.0	77.8
	情報処理	25	1	1	1.0	1	1	1.0	0%	100%	93%	63.0	91.0	81.1
	小計	27	36	72	48.2	9	68	41.9	17%	100%	88%	68.2	90.2	78.8
専攻教育科目	21cp独自科目	27	9	24	19.4	7	20	18.8	29%	100%	94%	74.5	92.5	85.0
	他学部	25	2	20	12.1	2	18	10.5	0%	100%	84%	68.2	89.6	78.9
	小計	27	22	40	30.7	7	38	28.1	29%	100%	89%	74.5	90.7	83.2
総計	27	60	107	78.9	16	103	70.0	21%	100%	88%	70.7	90.4	80.6	

自分の興味・関心に基づいて11の学部で開設されている講義を履修するので、21cpとして代表的な履修パターンというもの存在しなかった。そうした中、傾向として言えることは、

a) 文系4学部での履修が多い。これは理系

に比べて比較的積み上げ型学習を要しないことが要因と思われる。文系の中でも文学部での履修が多い。

b) 理系学部の中では、芸術工学部での履修が多い。芸術工学部に関しては、第4期生入学と同時に大学統合により同学部が発足したが、芸術工学部そのものがデザインというコ

表9 8期生の
単位取得学部数

単位取得 学部数	8期生	
	人数	割合
0学部	2	7%
1学部	2	7%
2学部	4	15%
3学部	9	33%
4学部	7	26%
5学部	2	7%
6学部	1	4%
計	27	100%
平均学部数	3.0	

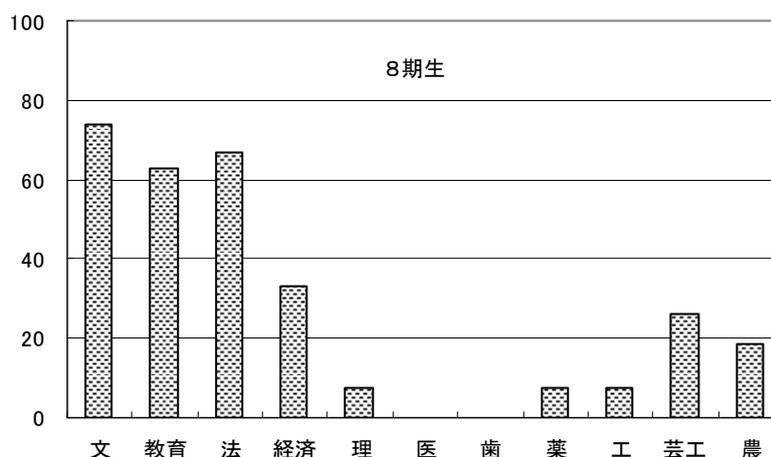


図3 第8期生の各学部における履修傾向

ンセプトの基に文系・理系にまたがる学際的な学部であることによると思われる。

- c) 医学学部での履修は少ない。
- d) 4学部以上の学部から単位を取得している者が5割以上いる。
- e) 「ゼネラリスト型 > 複合型 > 専門型」の順で履修学部数が多く、また、文系学部での単位取得率も概ねこの順に高い。

その他として、選抜時に3つの講義（各50分）を聴講させて、それぞれに対するレポートや討論をさせているが、それらは人文、社会、自然というようにテーマが広範になるように準備しており、受験者にはその中から一つを選んで小論文を書かせている。過去10回の入試での選択率を調べたところ、自然をテーマとした講義に取り組む受験者が少ないことが判っている。入学者において文系学部での履修が多いのも、このようなことが関係しているとしたら選抜方法を微修正することによって文系・理系の比率の偏りを是正できるのではないかと考えている。

また、在学生の年次進行の履修動向を常時把握しておくことにより、何らかの原因で修学の意欲を失っている学生の早期発見に利用し、助言を与える際の参考となると予想される。

何れにしても25名程度の少人数ながら多様な学生が在籍するプログラムであるので、「専門性の高いゼネラリスト」の理念を具現化すべく、今後も継続的に調査を行ない、より良い運営を行なうための資料としたいと考えている。

参考文献

- 九州大学21世紀プログラム自己点検・評価委員会編(2011),九州大学21世紀プログラム自己点検・評価報告書.